

甚六桜・管理委員会

「身近な地域のまちづくり活動への政策提案」



平成27年度 地域景観リーダー育成研修会

甲州市役所 都市整備課 武井 一徳

甚六桜・管理委員会の紹介

◆ 組織の結成と目的

昭和48年に菱山地区の跡取りの若者たちが「菱山甚六会」を結成し、“菱山のために自分達の力で何か宝物を残そう！”と取り組みを始め、勝沼ぶどう郷駅周辺に1千本もの桜の苗木を植え、育て、管理を目的として行っている。

◆ 構成員の変遷

当初、菱山地区在住の長男16人で始め、一時60人程度まで増加したものの、社会状況の変化により会員も減少を続け、平成24年1月に解散した。しかし地元だけでなく県内外の観光客からも桜を守り続けて欲しいという声が寄せられ、区長を中心に、今後の対応を検討した結果、会員を地区の全戸(約360戸)の住民全体に広げ、女性や子どもも参加し、活動を続けている。

名称を「甚六桜・管理委員会」と改名し、引き継がれている。

◆ 基本的な活動と他団体との連携

基本的な活動として、甚六公園および桜周辺の下刈りや消毒作業、また“おもてなし”の心から、玄関口である駅の清掃作業を行い、春にはさくら祭りを開催している。

他団体や行政と連携しながら、勝沼ぶどう郷駅からの景観の保全活動に積極的に参加している。

甚六桜・管理委員会の活動内容

- ◆ 桜周辺の下刈り作業
毎年3月、11月に実施
- ◆ 消毒作業
夏季には消毒作業を実施
- ◆ 清掃活動
勝沼ぶどう郷駅および
甚六公園周辺を実施



甚六桜・管理委員会の活動内容

◆ さくら祭り

当時植えた桜も駅の改修などで、本数は減少したが、現在も線路沿い900メートルにわたって約600本のソメイヨシノが咲き誇り「甚六桜」として親しまれている。

◆ かつぬまぶどう郷駅開業100周年イベント祭

大正2年4月8日に請願駅として開業、昭和6年に電化、昭和43年に複線化が行われ、平成24年春には開業100周年を迎え記念イベントが開催された。

- 平成10年に関東の駅100選に選定される。
- 平成15年には県内全通100周年を記念して中央線十景に選定される。



甚六桜・管理委員会の活動内容

◆ 勝沼ぶどう郷駅からの 景観保全活動

行政と連携し、ガードレールを景観配慮色にする「駅から景観」改善事業や、勝沼ぶどうの丘周辺の圃場の青色ネットを自然色ネットに修景する取り組みにも積極的に参加している。



甚六桜・管理委員会の成果と課題

◆ 活動の成果

- 毎年春には、会が主催するさくら祭りが行われ、県内有数の桜の名称として地域住民や観光客を楽しませている。
- この活動を長期に渡って継続してきたことにより、住民同士の繋がりが更に強くなってきている。

◆ 現状の課題

- 今後は人口の減少に加え、更なる高齢化が進み活動に参加出来ない人が増加することにより、活動の継続が困難となってくる。
- ソメイヨシノの寿命は60年と言われており、既に40年が経過し、樹勢の衰えが見受けられるようになってきたため、計画的な改植が必要となってくる。
- 基本的にボランティア活動のため、消耗品や飲み物代が自己負担となっており、活動費が不足している。

現状の課題に対する提案

◆ 課題に対する提案

- 景観モデル地区のイベントとして協働活動を行う。
- 各種助成制度を活用した改植費用の助成。
- 勝沼ぶどう郷駅からの景観保全エリアの拡大をすることで、地域の価値や魅力向上を図る。そのことで観光客や移住者の増加を見込む。
- 菱山地区で守ってきた甚六桜を山梨県の宝として、維持管理の輪を広げる。
- JRでは、桜の開花時期には臨時電車や通常ダイヤの徐行など、乗客を楽しませている。民間との連携を図り、周辺整備をすることにより更なる乗降客の増加を狙う。(日本一の眺望駅を目指す)。



- ◆ これらのために重要なことは、

毎年活動を継続すること

が必須条件である。